

## 防災訓練(学習)で大切なこと

自分の命を大切にすること → 自助

そして、地域の中でできることを進んで行うこと → 共助

### ○岩手県釜石で中学生が貢献できた事

10月20日(土)、地域防災訓練が実施されます。1年生の皆さんは登校日となります。地域防災訓練は、地域の方々が、一生懸命に準備、企画していただいたものを基盤に、小中学校が参加し、長町中学校区全体が命の大切さや協力することの大切さを学ぶ場となります。訓練ではありますが、訓練の積み重ねが命を守ることに結びつきます。皆さん、こんな話を知っていますか。東日本大震災前、岩手県の釜石地区の沿岸部に近い小中学校では、地震がきたら、それぞれがまず高台に逃げることを継続して訓練していました。いわゆる「津波てんでんこ」という考えです。「てんでんこ」とは、各自、それぞれという意味です。津波が来たら、それぞれが自分で逃げるという意味です。

#### 【震災当時の釜石地区で起きたこと】(資料の要約)

平成23年3月11日、午後2時46分に東日本大震災が発生すると、釜石東中の副校長は、教室から校庭に出始めた生徒たちに、「点呼など取らなくていいから避難所に走れ」と大声で叫んだ。そして若い教職員たちに率先して生徒たちと避難所へ走るよう指示。避難所は700m南西の福祉施設で、所在地は訓練で全生徒に周知されていた。当初、一部の生徒は走らず、校庭に整列しようとしたが、副校長らは、懸命に「逃げろ、走れ」と指示。そのため全員が校門を出て、避難所へと駆け出した。

一方、鶴住居(うのすまい)小学校では、耐震補強が終わったばかりの鉄筋コンクリート造り3階建ての校舎で、雪も降っていたことから、当初は児童を3階に集めようとしていた。しかし「津波が来るぞ」と叫びながら走って行く中学生らを見て、教職員は避難所行きを即断。小学生も一斉に避難所へ走り出した。

避難した小中学生約600人は、標高約10メートルの福祉施設に到着したが、裏手の崖が崩れそうになっていたため、中学生らが「もっと高い場所への移動を」と提案。さらに400m離れた標高30mの介護施設へ、小学生の手を引きながら避難した。なかには、小学生をおんぶして駆け出した生徒もいた。

この直後、津波は20mに達し、福祉施設は水没。防災意識の高い中学生の冷静な状況判断が、多くの命を間一髪で見事に救うことになった。この事は、「釜石の奇跡」として語り継がれるようになった。

日頃から訓練にしっかりと意識を高く持って参加した中学生は、実際の大地震に遭遇しても、マニュアルにとらわれず、とっさの機転で、動き出したという例です。しかも、小学生の手を引いて走ったり、おんぶして走ったりした生徒も多数いました。

長町中学校は、津波の心配はありませんが、どんな災害に巻き込まれるか分かりません。訓練には、積極的に参加し、まずは、**自分の命を守る(自助)**という意識を持ち、そして、**地域の方々のお手伝い(共助)**を進んで行おうという意識をもつことはとても重要な事です。長プロや地域でのボランティア、木朝清掃等に積極的に参加している1年生の皆さんの**学年目標は思いやりでしたね。** **今度は訓練の場で、中学生ができることを探してください。** **地域の方々に「何か自分たちにできる事はありませんか」と勇気を持って、話しかけてみてください。** **それだけでも訓練は大成功です。**